

F2-70

公共案内・誘導サインによる観光地特有の誘導方法に関する研究

A study on leading to the destination in tourist spot to the planning in the public information and sign display

○金濱 伊生太¹, 八藤後 猛²*Iota Kanahama¹, Takeshi Yatogo²

Abstract: A guideline of a signature plan in a public place is made in a metropolis and a tourist spot recently. But the contents are the various contents by an area, and aren't unified. I would like to examine how leading to the destination in tourist spot. We used the following Google Street View to observe public information and sign display in Kyoto City. It is concluded that there are many leading sign display on the way hard to find and is to exceed 66.7% of the whole signature set up. In addition, it is that a sign display is to set up in the place that is nearer than approximately 2km from the sightseeing base.

1. 研究背景と目的

主要な観光地や都市において、公共サインの設置に関するガイドラインが策定されているケースが増えている。しかし、その形態は地域によって様々である。サインの整備に関して多様な実態がある中で、街スケールでその有効性を示す研究は少ない。利用者には的確に空間情報を提示しているかといった既往研究はいくつかあるが、公共案内・誘導サインに着目した研究はあまりない。

この研究では、とくに歩行者のために設置された案内・誘導サインに着目して設置状況をまとめ、その傾向からサインによる観光地特有の誘導方法を提示することを目的とする。

2. 現況調査

2-1. 調査概要

京都観光総合調査の「京都市内外国人訪問地トップ25」^[1]をもとに、周辺の地形の違いや最寄り駅からの距離などを勘案して状況の異なる5箇所を選別し、調査対象とした(Table 1)。それぞれの対象施設について、Googleマップのストリートビュー機能を用いて整備状況を確認し、周辺のサイン整備状況としてまとめた。

2-2. 調査結果

・周辺観光地に位置し、中でもとくに道が入り組む龍安寺や銀閣寺は誘導サインの数が多く、案内図等を含めた設置サイン全体に占める誘導サインの割合は66.7%を超えている。

・2011年に策定された京都市のサインガイドライン^[2]に基づく矢羽根誘導サインは、龍安寺と三十三間堂周辺において確認でき、大通りとなる府道や市道の交差点に設けられている。

・サインは観光拠点の半径約2km圏内に設置されている。なお、最寄り駅から案内されているとは限らない。

Table 1: Investigation object

対象	地形	最寄り駅と距離
龍安寺	周辺観光地域	龍安寺駅 (750m)
三十三間堂	周辺観光地域	七条駅 (500m)
銀閣寺	周辺観光地域	出町柳駅 (2200m)
下鴨神社	周辺観光地域	出町柳駅 (1100m)
二条城	基盤目状地域	二条城前駅 (140m)



Figure 1: Overview of the study area



Figure 2: Signs around Ryoanji Temple

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

・龍安寺周辺においては、最寄り駅を降りたところに誘導サインがあり、角ごとに必ず設置されている (Figure 2)。しかし、最短ルートではなく、住宅街を避け、幅員の広い市道 183 号線を経由している。

・三十三間堂周辺においては、駅周辺と入口への曲がり角に誘導サインが設置されている。駅から曲がり角へは府道 113 号線を東に 450m ほどの距離である。また、さらに東側に位置する東山七条交差点には矢羽根誘導サインが設置されている (Figure 3)。

・銀閣寺周辺においては、最寄り駅となる出町柳駅付近にはサインがなく、駅から 1.2km 離れたバス停付近で初めて誘導サインが確認できる。白川通と府道 101 号線が交差する白川通今出川交差点にはボード独立型の誘導サインが設置されている (Figure 4)。

・下鴨神社周辺においては、駅から西に 150m 移動した地点が一本の細い路地の起点になっている。その道が参道への誘導路になっていて、起点に誘導サインが設置されている。下鴨神社は南北に長い敷地となっていて、西側に府道 32 号線が並行している。ここから参道へ直接入る箇所もあり、府道沿いにも誘導サインが設置されている (Figure 5)。

・二条城周辺においては、駅からの距離が極端に短く、誘導サインは見当たらない。そのかわりに案内サインが充実していて、駅周辺に 3 つのサインを確認できた (Figure 6)。

2-3. 考察

京都市は、地形として基盤目状地域と周辺観光地域に大別でき、地形の変化によって有効な誘導方法が異なる。また、対象となる観光拠点の敷地面積によっても違いが生まれると考える。

二条城は今回調査した 5 箇所中敷地面積が最も広く、サインの設置が少ない。これは、大通りに直接面していてアクセスが良好であり、誘導の必要性が低いためと考える。

銀閣寺や下鴨神社のように最寄り駅周辺に誘導サインがない場所は、最寄り駅から歩行距離が 1km を超え、バスを利用する人が多いためと考える。

3. 今後の展開

今後は実際に観光に訪れた中学生に対してアンケートを実施し、誘導サインがどれ程認知されていたか、現況調査のみではわからなかった点を探っていく。また、京都市だけでなく、他の観光地との比較も行っていく。



Figure 3: Signs around Sanjusangendo Temple



Figure 4: Signs around Ginkakuji Temple



Figure 5: Signs around Shimogamo Shrine



Figure 6: Signs around Nijo Castle

参考文献

- [1]京都市産業観光局：平成 28 年 京都観光総合調査，2016，p56.
- [2]京都市：京都市観光案内標識アップグレード指針，2011.